

[成果情報名] 良食味で耐暑性のあるラッキョウとネギの種間雑種「NR 静育 1号」の育成

[要 約] 辛味が少なく、食味と草勢に優れる、ラッキョウとネギの種間雑種「NR 静育 1号」を育成した。

[キーワード] ラッキョウ、種間雑種、耐暑性

[担当] 静岡農林技研・育種科

[連絡先] 電話 0538-36-1554、電子メール agriikusyu@pref.shizuoka.lg.jp

[区分] 野菜

[分類] 技術・普及

[背景・ねらい]

浜松地方特産であるエシャレット（ラッキョウ）は、夏期の休眠により地上部の葉が枯死し商品価値が低下するため、これまでに子房培養によりネギとの雑種個体を作成し、選抜を行ってきた。しかし、エシャレットに極めて近似する諸形質が求められたために選抜を中断し、雑種系統は所内保存とした。

近年エシャレット産地において、新たな商品開拓として雑種に対する評価が高まったことから、系統選抜を再開し、有望系統を育成する。

[成果の内容・特徴]

1 育成経過

1995年10月、ラッキョウ‘ラクダ’にネギ‘浅黄系九条’の花粉を交配、5日後に子房培養を実施し、1か月後に33個の発芽個体を得た。以降、耐暑性および食味により選抜を重ね、1998年にフローサイトメトリーおよび染色体観察により、ラッキョウとネギの種間雑種であることを確認した。2010年度から選抜を再開し、食味および草勢に優れる‘ラクダ 95-31’を選抜、2012年7月に育成を完了し、育成番号「NR 静育 1号」を付与した（第1図）。

2 特性

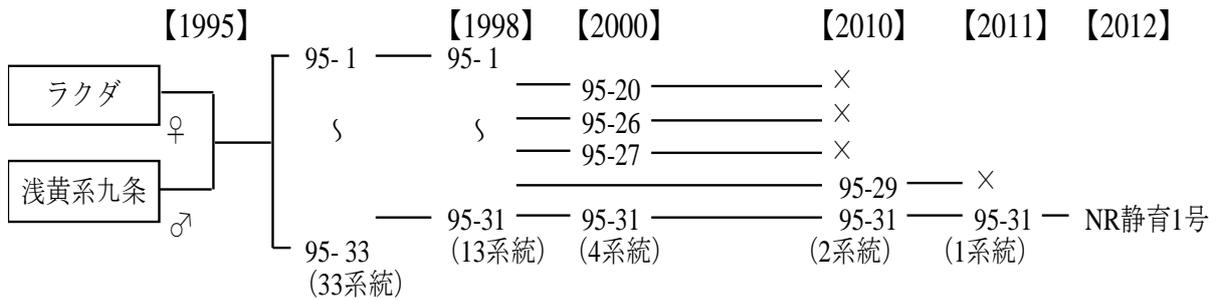
‘NR 静育 1号’は、‘ラクダ’と比較して、草姿は立性で、葉の幅は極広く、分球はやや多く、葉しょう部やりん茎の外皮の一部にアントシアニンがみられ、りん茎の辛みは弱く、葉の枯れ上がりは晩である。同じ種間雑種である‘越のパール’と比較して、草丈、葉の長さおよび葉しょう部が短く、りん茎の外皮の色が赤く、りん茎の辛みが弱である（第1表）。また、耐暑性および食味に優れるほか、葉身部の緑色が鮮やかで外観品質が良好であり、可食部も多く新たな利用法が期待できる（第2図）。

[成果の活用面・留意点]

1 抽だい時期はネギに近く、5月中旬である。

2 育成した‘NR 静育 1号’に合う作型や植え付け深など、今後、適切な栽培方法の検討が必要である。

[具体的データ]



第1図 育成系統の系譜図

第1表 育成系統の特性¹⁾

	草姿	草丈 (cm)	葉の幅 (mm)	葉の横断面の形	葉しょう部の長さ (cm)	葉しょう部のアントシアニン着色の強弱	分球の数 (個)
NR静育1号	立性	長	極広	丸味	長	強	やや多
越のパール	立性	極長	かなり広	丸味	かなり長	やや弱	多
ラクダ	中間	長	広	中	長	中	少

	1株球重 (g)	りん茎の縦断面の形	りん茎の内部分球の数 (個)	りん茎の外皮の色	りん茎の辛みの強弱	葉の枯れ上がりの早晩	抽だいの早晩
NR静育1号	かなり重	楕円形	2	一部赤	弱	晩	極早
越のパール	極重	楕円形	3	白	強	晩	極早
ラクダ	重	円形	2	白	中	中	早

1) 品種登録出願に係る審査基準に基づく。



第2図 育成系統の全体写真および他品種との比較

(左：NR静育1号の堀上時、中：外皮除去後、右：調整後)

[その他]

研究課題名：農産物品種および生産資材の比較、検定、調査

予算区分：県単

研究期間：2010～2012年度

研究担当者：片井秀幸、馬場富士夫、河田智明、竹内隆